

31. 心臓血管外科

心臓血管外科部長 内田孝之

2023年はコロナ禍からも落ち着きを取り戻しつつある一年でした。当科スタッフは大学からの人員派遣の影響で一減の4人でしたが、手術件数は、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）22件を含め人工心肺、心臓手術が169件、非開心術、大動脈ステントグラフトまで含めた心臓大血管手術が260件とコロナ以前をも上回る過去最多の症例をご紹介いただき、忙しいながらも充実した日々であったことを感謝しております。

しかしながら一方、当科マンパワー、更にそれ以上に麻酔医不足などの当院の諸問題からお断り、移送せざるを得なかった超緊急大動脈疾患は増加しており、搬送中の状態悪化のリスクを考えると今後に向けた大きな課題を感じた一年でもありました。

2024年からはさらに働き方改革の影響により、超緊急救命治療を要する患者さんへの治療困難ケースは増大する可能性が高いと思われれます。高度急性期病院の使命の一つが高度専門医療による緊急治療体制の充実であることを考えると、今後当科としても、『筑豊の三次救急最後の砦』の一翼を担い続けることが重要です。この点に関しては病院全体に働きかけ最優先で取り組むべき事案とは考えております。

さらに当科での取り組みとして手術技能については、昨年取得した低侵襲心臓術（MICS）実施施設認定を更にレベルアップした指導医取得が目標です。その為に、MICS僧帽弁形成術/置換術、大動脈弁置換術へ積極的に取り組み、更に今年は抗凝固療法抗血小板剤使用困難心房細動症例への脳梗塞予防としての低侵襲胸腔鏡下左心耳閉鎖術も開始しております。

昔も今も、我々の常に変わらぬ大きな目標は、患者さん一人一人に応じたよりよい手術、治療の提供、質の向上です。今年も『選ばれる高度急性期病院』の『選ばれる心臓血管外科』を目指して精進を続ける覚悟です。

2024年も、どうぞ宜しくお願いいたします。

2023年 診療実績

手術症例数

- CABG：45（OPCAB:3）
 - VHD：82（+CABG:16、MICS:10、TAVI:22）
 - TAA：62（+VHD:2、+CABG:3、TEVAR:28）
 - その他の開心術：8
- 心臓＋胸部大動脈手術：197
-
- AAA：63（EVAR:54）、追加治療：8
 - ペースメーカー 新規：108、交換：47、リード：7
 - ICD 新規：12（s-ICD 8例含む）交換：8
 - CRTD 新規：14、CRTP 新規：6、CRT 交換：8
 - その他：82

※下肢血管手術は血管外科に記載